

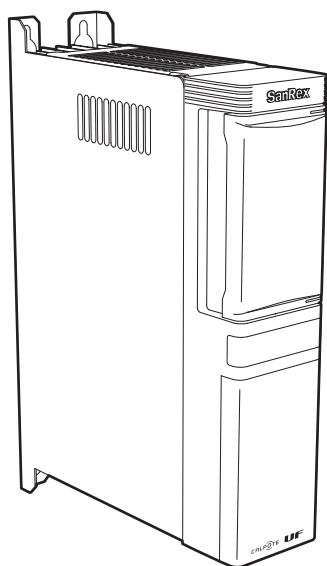
SanRex

サイリスタ式 電力調整ユニット

CALPOTEC

UF-1 series

取扱説明書



- この製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書『安全上のご注意』をよくお読みになり、十分に理解した上で正しくお使いください。
- この説明書は最終需要家様まで確実にお届けください。

目次

まえがき	1
安全上のご注意	2
■ 安全に関して守っていただきたい事項	2
■ 使用環境の制限	3
■ 据付上の注意事項	3
■ 配線上の注意事項	4
■ 使用上のご注意	4
■ 保守・点検上の注意事項	5
ご使用になる前に	6
■ 製品の確認	6
ユニット接続図	7
ユニット外部接続図	8
■ 設定方式別接続図	8
■ ユニット制御配線方法	9
ユニットの設定方法	10
■ ディップスイッチ S1 の設定	10
■ ディップスイッチ S3 の設定	11
関数特性	12
異常検出	13
■ 異常検出表示	13
■ 自己診断機能	14
■ 外部警報回路	15
ユニットの外形寸法	16
使用ヒューズ	17
その他	18
■ 使用上の注意	18
■ 保守と点検	19
■ トラブルシューティング	19
オプション	20
■ 表示パネル (型式 UF-DP)	20
■ 変換ボード (型式 UF-TB)	20
■ 通信機能	20
ユニットの仕様	21

まえがき

このたびは、“サイリスタ式電力調整ユニット CALP[®]TE UF1 シリーズ”をお買上げいただき、誠にありがとうございました。

サイリスタ式電力調整ユニットは、その操作性・信頼性等の優位性により各方面で広く利用されています。当社は、サイリスタ素子からの開発・製造を一貫して行い、数々の製品を世に送り出しご愛用頂いております。この長年の実績をもとにして、新たに自信を持ってつくり上げました“サイリスタ式電力調整ユニット CALP[®]TE UF1 シリーズ”をお届けします。

この UF1 シリーズは、主回路には絶縁型サイリスタモジュールを採用して小型軽量化を行い、制御回路にはワンチップマイコンを搭載して機能の充実・性能の向上を図りました。

安全上のご注意


据付、運転、保守・点検の前に必ずこの取扱説明書とその他の付属書類をすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを『危険』、『注意』として区分してあります。

危険

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。


注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合及び物的損害だけの発生が想定される場合。


なお、 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

禁止、強制の絵表示の説明を次に示します。

禁止

禁止（してはいけないこと）を示します。
例えば火気厳禁の場合は  となります。

強制

強制（必ずしなければならないこと）を示します。
例えば接地の場合は  となります。

■ 安全に関して守っていただきたい事項

危険

重大な人身事故を避けるために、必ず次のことをお守りください。

- ・ 充電部（入出力端子）が露出している場合、ボックス内に収納するか、保護カバーを必ずしてください。感電の恐れがあり、死亡または重傷などの重大な人身事故を引き起こす場合があります。
- ・ このユニットの据付、配線、保守点検、修理は、安全を確保するため、有資格者またはユニットをよく理解した人が行ってください。
- ・ 装置が故障し、異臭、異音が発生したときは、装置をすぐに停止してください。火災の原因となることがあります。

注意

感電を避けるために、必ず次のことをお守りください。

- ・ 帯電部に触れないでください。
- ・ 配線作業や保守点検は、必ず配電盤スイッチにより全ての入力側電源を切って、電源の死活を確認してから作業を行ってください。
- ・ 電源が供給されている時は、電源接続線に手を触れないでください。感電、火傷の原因となります。

■ 使用環境の制限

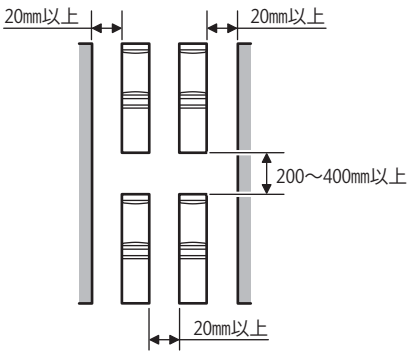
⚠ 注意

本装置は、次のような環境での使用、保管は絶対にしないでください。装置故障、損傷、劣化などによって、火災の原因となります。

- ・ カタログ、取扱説明書に記載の周囲環境から外れた高温、低温、多湿となる場所
- ・ 直射日光が直接当たる場所
- ・ 振動、衝撃が加わる場所
- ・ 火花が発生する危機の近傍
- ・ 粉塵、導電性粉塵、腐食性ガス、塩分、可燃ガスがある場所
- ・ 屋外

■ 据付上の注意事項

⚠ 注意

- ・ ユニット形式が正しく読めるように縦方向に垂直に取付けてください。
(横方向に取付けたりしますと、ユニットの温度が異常に上昇します。)
 - ・ 粉塵等が発生する環境でユニットを使用する場合には、ユニットを盤内に取付け、盤内に粉塵等が入らないように対策をしてください。
 - ・ できるだけ風通しが良く、ほこりの少ない所に設置してください。
 - ・ 本体の上下および左右は、放熱に必要な空間をあけてください。
特に2段以上積み重ねる場合は、下段の熱の影響が上段に出ないように十分に間隔をあけてください。
通信機能を取付ける場合には、ユニット本体の左側面に通信ユニットを取付けます。通信ユニットの幅が24mmありますので、通信ユニット寸法を考慮してください。また、保守点検の際に正面扉が開閉出来るように取付けてください。
- 
- ・ ユニットの動作周囲温度は、50℃以下です。高温になる所ではご遠慮を願います。
 - ・ ユニットの動作周囲湿度は、90%Rh以下です。高湿の所ではご遠慮を願います。

■ 配線上の注意事項

⚠ 注意

- ・ 配線工事は専門業者に依頼してください。
配線工事に不備があると、感電、火災の原因となります。

○ 専門業者への注意事項

⚠ 危険

- ・ 作業者は入出力配線接続を行う前に配電盤スイッチにより全ての入力側電源を切って、電源の死を確認してから作業を行ってください。感電、けがの原因となります。
- ・ 作業者はスイッチ投入禁止の札を付け、作業者以外は配電盤スイッチを触らないようにしてください。感電、けがの原因となります。
- ・ 電源接続部分には必ず絶縁物（チューブ、テープなど）で導電部を完全に被覆してください。もし、接続部が露出していると感電や電源短絡による火災の恐れがあります。

⚠ 注意

- ・ 入力、出力配線は、ユニットに適した電線径を選定してください。電線径が小さい場合は、発熱、火災の原因となります。
- ・ 配線は回路電圧に応じた絶縁耐力のあるものを使用してください。必要な絶縁耐力のない電線の場合、感電の原因となります。
- ・ 入出力端子への接続は必ず圧着端子を用いて行ってください。不用意な接続は、感電の原因となります。

■ 使用上のご注意

⚠ 危険

- ・ ユニットカバーは開けないでください。感電の原因となります。
- ・ 開口部に指や金属棒を入れないでください。感電の原因となります。
- ・ ユニットが故障し、異臭、異音などが発生したとき、装置をすぐに停止してください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ・ 開口部に指や棒を入れないでください。冷却扇による巻き込み事故により、けがの原因となります。
- ・ ユニットの入出力端子部に金属棒や指などで触れないでください。感電、けがの原因となります。

■ 保守・点検上の注意事項

⊘ 禁止

- ・ 指定した人（専門業者）以外の人は、保守、点検、修理をしないでください。感電、けが、火災の原因となります。

⚠ 注意

- ・ 装置の修理または故障部品の交換は、お買い上げの販売店、サービス会社へ依頼してください。

○ 専門業者への注意事項

⚠ 危険

- ・ 保守点検、修理などの作業を実施する場合は、必ず安全に適した服装で行ってください。感電、けがの原因となります。
- ・ 保守点検、修理などの作業を実施する際は、必ず配線盤スイッチにより全ての入力側の電源を切って、電源の死活を確認してから作業を行ってください。感電、けがの原因となります。
- ・ 作業者はスイッチ投入禁止の札を付け、作業者以外は配電盤スイッチを触らないようにしてください。感電、けがの原因となります。

⚠ 注意

保守、点検、修理時は、取扱説明書をよく読んで、作業を実施してください。作業に不備があると、感電、火災の原因となります。

- ・ 作業前に時計などの金属物をはずしてください。金属物を着けたまま作業すると、感電、けがの原因となります。
- ・ 作業エリアには作業者以外立入禁止の札を付けて作業者以外の人が安易に作業エリアに入らないようにしてから作業を行ってください。感電、けがの原因となります。
- ・ 絶縁対策工具を使用してください。絶縁対策工具以外の場合は、感電の原因となります。
- ・ 変圧器類、放熱フィンなど高温部に触らないようにしてください。電源 OFF 後でも高温部だけが原因となります。
- ・ 交換部品は、同一定格、同一タイプとしてください。異なる部品を使用した場合、火災の原因となります。

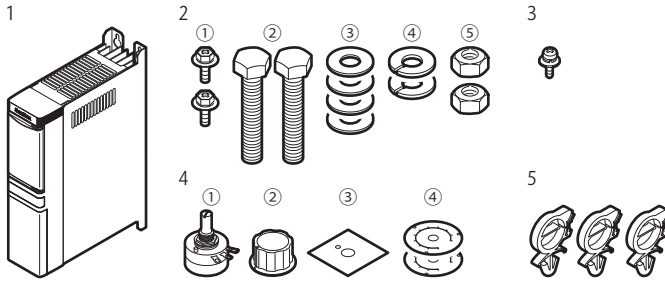
ご使用になる前に

■ 製品の確認

据付ける前に以下の点をご確認ください。

- ・ ご注文通りの正しい仕様の製品および、オプションがあるかどうか。

【本体】



No.	同梱品名	員数
1	UF1 ユニット本体	1台
2	出力配線接続用ビス、ナット類	
	① ビス (25A ~ 250A のみ)	2個
	② ボルト (350A、450A のみ)	2個
	③ ワッシャ (350A、450A のみ)	4個
	④ スプリングワッシャ (350A、450A のみ)	2個
	⑤ ナット (350A、450A のみ)	2個
3	アース端子接続用ビス	1個
4	付属品ボリュームセット	1セット
	① ボリューム (1kΩ B 特性)	1個
	② ツマミ	1個
	③ 絶縁シート	1枚
	④ 銘板 (手動出力調整、匂配設定)	2枚
5	イージーロック	3個

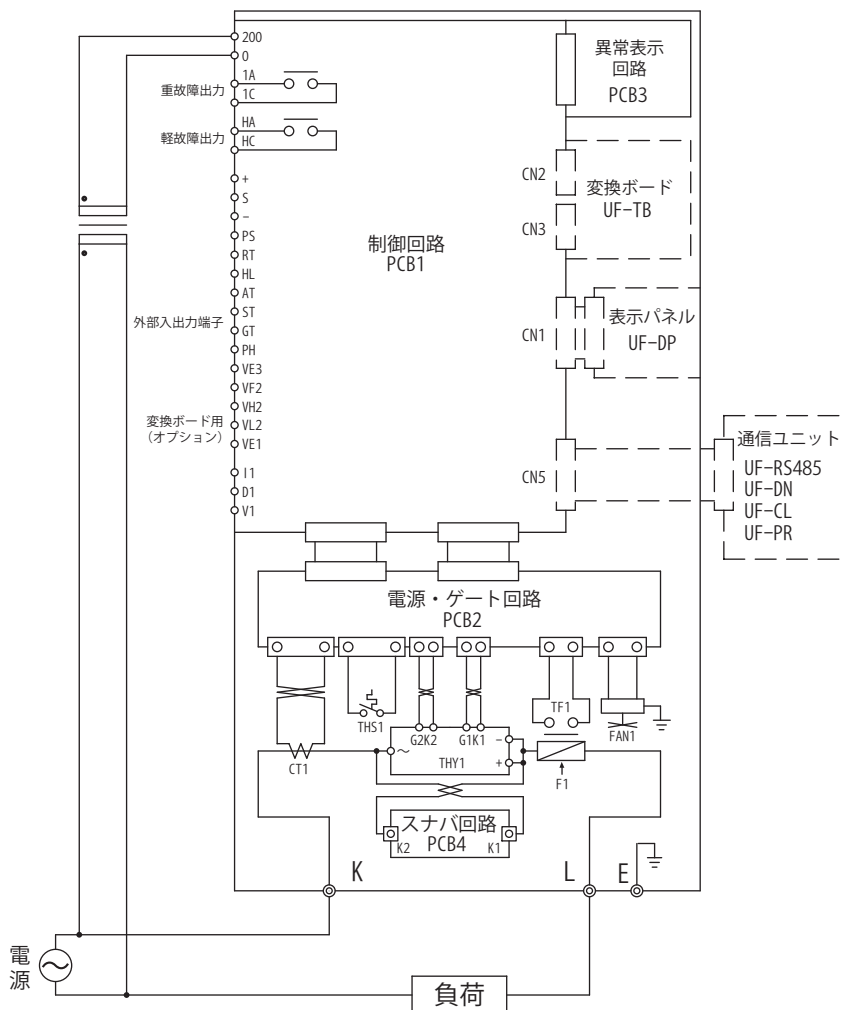
【オプション】

オプション名	形式
表示パネル	UF-DP
変換ボード	UF-TB***
RS485 通信ユニット	UF-RS485
DeviceNet 通信ユニット	UF-DN
CC-Link 通信ユニット	UF-CL
PROFIBUS 通信ユニット	UF-PB

※ 変換ボードには、1A、1V等8種類あります。詳細は『変換ボード取扱説明書』を参照してください。

- ・ 変換ボード (UF-TB***) のオプション付きをご注文の場合は、必要な PT、CTがあるかどうか。
- ・ 輸送中の事故などで製品が壊れていないかどうか。

ユニット接続図



※ 外部入力端子の配線は設定方式別接続図を参照してください。

※ 主回路電源が 200/220V 以外の際には、変圧器により制御電源を 200/220V にしてください。
主回路と制御回路の極性を合わせて配線してください。

THY1	サイリスタ	CT1	変流器
FAN1	冷却扇 (風冷のみ)	PCB	プリント板
F1	ヒューズ (F 付きのみ)	CN	コネクタ
TF1	ヒューズ警報接点 (F 付きのみ)	THS1	サーマルスイッチ

ユニット外部接続図

■ 設定方式別接続図

各設定方式別接続図を下記に示します。詳細については、活用マニュアルを参考にしてください。

- GT-PH 端子は、運転中短絡してください。運転中に開放しますと出力を強制停止します。
- ST-PH 端子は、短絡にて出力を運転し、開放にて出力を停止します。
GT と ST 端子とは、停止動作に下記のような違いがあります。

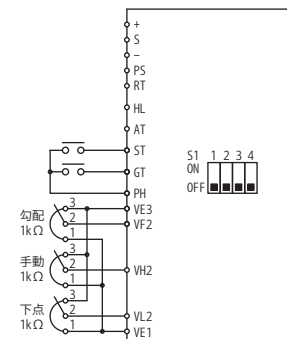
GT-PH 端子開放時、ソフトスタート時間に関係なく、出力を即停止。

ST-PH 端子開放時、ソフトスタート時間にて出力を徐々に低下し、出力を停止。

短絡時は、どちらの場合もソフトスタート時間にて出力を徐々に設定まで上げていきます。

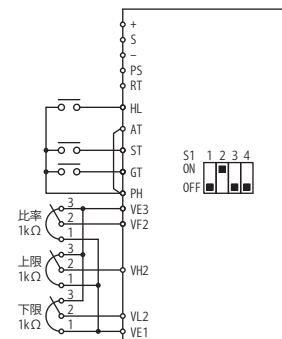
- AT-PH 端子は、短絡時に自動調整となり、開放時に手動調整となります。
- HL-PH 端子は、短絡時上限設定にて出力が動作し、開放時下限設定にて出力が動作します。

• 手動調整



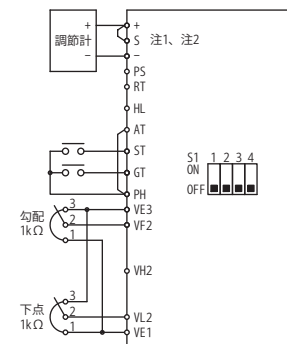
- ※ 勾配を使用しない場合 "VE3" と "VF2" とを短絡
- ※ 下点を使用しない場合 "VL2" と "VE1" とを短絡

• 二位置制御



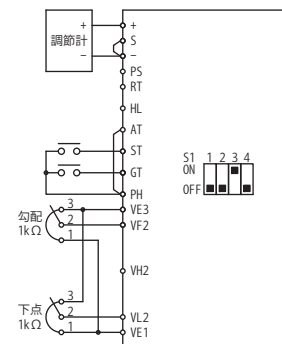
- ※ 比率を使用しない場合 "VE3" と "VF2" とを短絡
- ※ 下限を使用しない場合 "VL2" と "VE1" とを短絡

• 自動調整 (DC4~20mA/1~5V)



- 注1 電流信号の場合 "+" と "S" とを短絡
- 注2 電圧信号の場合 "S" と "-" とを短絡
- ※ 勾配を使用しない場合 "VE3" と "VF2" とを短絡
- ※ 下点を使用しない場合 "VL2" と "VE1" とを短絡

• 自動調整 (DC0~5V)

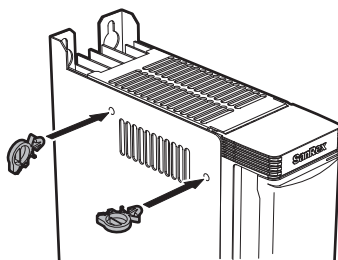


- ※ 勾配を使用しない場合 "VE3" と "VF2" とを短絡
- ※ 下点を使用しない場合 "VL2" と "VE1" とを短絡

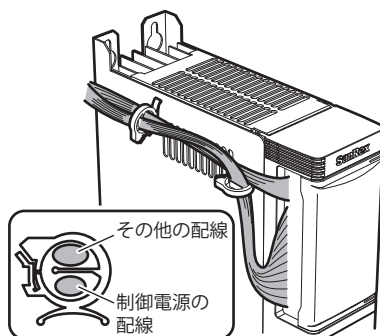
■ ユニット制御配線方法

ユニットの制御配線（制御電源、重故障出力、軽故障出力、外部入出力端子、変換ボード用）の結末にイーザーロックを使用してください。

- 1 イーザーロックをユニットに取付けてください。



- 2 イーザーロックにて制御配線を結束してください。
制御電源の配線とその他の配線は別結束してください。



ユニットの設定方法

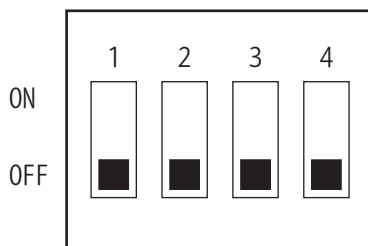
⚠ 注意

- ・ユニットのカバーを開けると充電部が露出するため、十分注意して設定を行ってください。電源を切って設定してください。

標準初期設定は以下の様になっていますが、使用方法が異なる場合にはユニット下側のカバーを開けた所のプリント回路上にありますディップスイッチ S1 の設定を変更してください。

○ 制御方式	位相制御
○ 温調器の種類	DC4 ~ 20mA または DC1 ~ 5V
○ サイクル制御	間欠式

■ ディップスイッチ S1 の設定

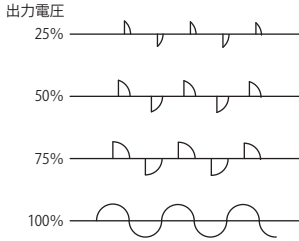


項目	内容	1	2	3	4
制御方式	位相制御	OFF			
	サイクル制御	ON			
温調器の種類	DC1 ~ 5V/4 ~ 20mA		OFF	OFF	
	DC0 ~ 5V		OFF	ON	
	二位置制御		ON	OFF	
	未定義		ON	ON	
サイクル制御	間欠式				OFF
	連続式				ON

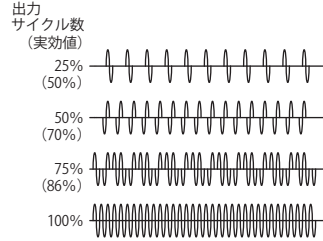
○ 制御方式 (S1-1)

【機能】位相制御とサイクル制御の選択をします。位相制御とは半サイクルの位相を実効値にて制御します。サイクル制御とは一定期間内の1サイクルのON回数を実効値にて制御します。出力運転中は位相制御・サイクル制御を切換えられません。出力停止中のみ位相制御・サイクル制御を切換えられます。サイクル制御 間欠式 / 連続式の設定切換えは S1-4 にて行ないます。但し、出力運転中には制御方式の切換をしません。運転中に制御方式が切換えられないようになっています。

・ 位相制御波形



・ サイクル制御波形



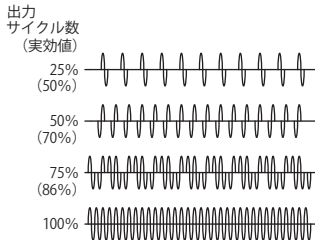
○ 温調器の種類 (S1-2、3)

【機能】温調器からの信号レベル切換え及び、二位置制御の選択を行ないます。出力運転中は温調器の動作を切換えられません。出力停止中のみ温調器の動作を切換えられます。但し、出力運転中には温調器の種類の切換をしません。運転中に温調器の種類が切換えられないようになっています。

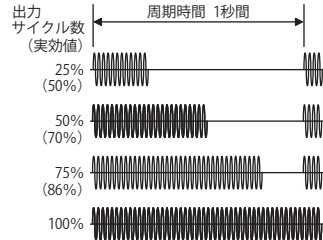
○ サイクル制御 (S1-4)

【機能】サイクル制御における間欠式と連続式を選択をします。位相制御 / サイクル制御の設定切換えは S1-1 にて行ないます。但し、出力運転中にはサイクル制御の切換をしません。運転中にサイクル制御が切換えられないようになっています。

・ 間欠式波形



・ 連続波形



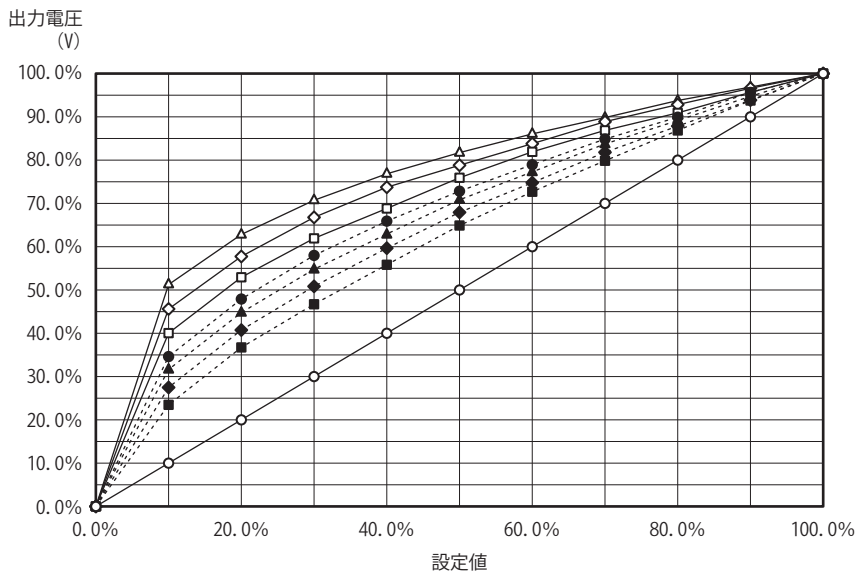
■ ディップスイッチ S3 の設定

S3 については RS485 通信ユニットのオプションが装着された時に、ユニットアドレスの設定を変更するスイッチですので、設定は初期のままにしておいてください。

関数特性

標準仕様の場合、制御信号と出力レベルとの関係は直線特性ですが、以下の様な特性に切換えることができます。

詳細については、活用マニュアルを参考にしてください。



	関数特性 No.	入出力特性
—○—○—	特性 0	直線特性
--■--■--	特性 1	1.6 乗根特性
--◆--◆--	特性 2	1.8 乗根特性
--▲--▲--	特性 3	2.0 乗根特性
--●--●--	特性 4	2.2 乗根特性
—□—□—	特性 5	2.5 乗根特性
—◇—◇—	特性 6	3.0 乗根特性
—△—△—	特性 7	3.5 乗根特性

異常検出

■ 異常検出表示



注意

- ・ 異常発生時、ユニット異常ランプ確認後、運転を停止し、電源を切にしてください。

異常検出回路が動作した場合、ユニット正面の端子台右横の異常表示灯が点灯または点滅します。表示内容、名称、運転状態、運転再開条件を以下に示します。

	表示内容	名称	検出後の運転	運転再開
点灯	OCR	過電流検出	停止	電源オフ
	TMP	温度上昇異常	停止	電源オフ ※ 1
	F	ヒューズ断線	停止	電源オフ ※ 2
	HET	ヒータ断線 (オプション)	継続	※ 3
点滅	THY	サイリスタショート	停止	電源オフ
		サイリスタオープン	停止	電源オフ
	LOD	負荷ショート	停止	電源オフ
		負荷オープン	継続	
	FRQ	周波数異常	継続	
	L. Vo	電源電圧低下	停止	自動復帰

※ 1 100A ユニット以上のみ。

※ 2 ヒューズ付きユニットのみ。

※ 3 ヒータ断線検出付き変換ボード (オプション) 装着時のみ。

○ OCR

ユニット定格の 150% 以上の電流が数サイクル以上連続して流れた場合に、過電流検出をします。過電流を検出しますと、「OCR」表示が点灯し、運転を停止します。運転を再開するためには、一旦、制御電源をオフしてください。

○ TMP

冷却フィンの温度が異常に上昇した場合に、温度上昇異常を検出します。温度上昇異常を検出しますと、「TMP」表示が点灯し、運転を停止します。運転を再開するためには、一旦、制御電源をオフしてください。

○ F

ユニットに付いていますヒューズ (オプション) が断線した場合に、ヒューズ断線を検出をします。ヒューズ断線を検出しますと、「F」表示が点灯し、運転を停止します。運転を再開するためには、一旦、制御電源をオフしてください。

○ HET

ヒータ断線機能 (オプション) により、ヒータ断線検出をします。ヒータ断線を検出しますと、「HET」表示が点灯します。運転は継続されます。

○ THY

自己診断機能によりサイリスタオープン、サイリスタショートを検出します。
サイリスタオープン、サイリスタショートを検出しますと、“THY”表示が点滅し、運転を停止します。運転を再開するためには、一旦、制御電源をオフしてください。

○ LOD

自己診断機能により負荷オープン、ショートを検出します。負荷オープン、ショートを検出しますと、“LOD”表示が点滅します。
運転は、負荷オープンの場合、継続されます。負荷ショートの場合、停止します。運転を再開するためには、一旦、制御電源をオフしてください。

○ FRQ

制御電源周波数に異常がある場合に、周波数異常を検出します。
周波数異常を検出しますと、“FRQ”表示が点滅します。運転は継続されます。

○ L.Vo

制御電源電圧が低下しますと、電源電圧低下を検出します。電源電圧低下を検出しますと、“L.Vo”表示が点滅します。
運転は、電源電圧低下を検出している間のみ停止していますが、検出が解除されると自動的に復帰します。

■ 自己診断機能

変換ボード(オプション)との組合せにより、多少機能が違います。

	変換ボード無		変換ボード有		検出後の運転状態
	運転中	停止中	運転中	停止中	
サイリスタオープン	△	×	○	×	停止
サイリスタショート	×	○	○	○	停止
負荷ショート	○	×	○	×	停止
負荷オープン	○	×	○	×	継続

※ 但し、変換ボードの3(U)、3H(U)装着時に限る。

※ △は、サイリスタオープンであっても負荷オープンと判断されます。

試運転などの時に主回路の電源を入れずに運転しますと、自己診断機能により運転が停止することがありますので、この場合自己診断機能を一時解除して運転してください。

自己診断機能を強制解除するには、ユニット正面の端子カバーを開けた右下にあります SELF CHECK スイッチを先の細い棒状の物で押してください。スイッチを約 1 秒間押しますと上部の異常表示灯 “THY” と “LOD” の 2 個が同時に約 1 分間点滅します。自己診断機能を強制解除中に一度制御電源をオフし、再度オンしても自己診断機能を強制解除中の設定は記憶していますので、制御電源をオン時に異常表示灯 “THY” と “LOD” の 2 個が同時に約 1 分間点滅して、自己診断機能を強制解除中であることをお知らせします。

自己診断機能の復帰は、再度 SELF CHECK スイッチを押してください。異常表示灯 “THY” と “LOD” の 2 個が同時に点滅している場合には、異常表示灯が消灯します。

■ 外部警報回路

異常検出回路が動作した場合、ユニット内の外部警報リレーが動作します。外部警報リレーには、重故障リレーと軽故障リレーとがあります。

○ 重故障リレー

下記に示します異常を検出した場合、強制的に運転を停止すると同時にユニット内の重故障リレーが動作します。

- ・ 過電流検出
- ・ 温度上昇異常
- ・ ヒューズ断線
- ・ 自己診断機能によるサイリスタオープン・ショート、負荷ショート

重故障リレー接点出力を使用して異常警報の監視に使用してください。

正常時	1A-1C 間	開
異常時	1A-1C 間	閉
リレー接点仕様	AC 250V	0.1A ~ 1A
	DC 30V	0.1A ~ 1A

重故障リレー接点出力は、複数の検出を報知しているので、どの検出にてリレーが動作したのかを異常検出表示にて確認してください。

○ 軽故障リレー

下記に示します異常を検出した場合、ユニット内の軽故障リレーが動作します。

- ・ 電源電圧低下
- ・ 周波数異常
- ・ 自己診断機能による負荷オープン
- ・ ヒータ断線検出 (オプション)

制御電源オン・オフ時に電源電圧低下、周波数異常の検出をする場合があるので、検出後約3秒間は、検出していても軽故障リレーが動作しません。

軽故障リレー接点出力を使用して異常警報の監視に使用してください。

正常時	HA-HC 間	開
異常時	HA-HC 間	閉
リレー接点仕様	AC250V	0.1A ~ 1A
	DC30V	0.1A ~ 1A

軽故障リレー接点出力は、複数の検出を報知していますので、どの検出にてリレーが動作したのかを異常検出表示にて確認してください。

ユニットの外形寸法

型式	定格電流	冷却方式	外形寸法 (mm)							重量 (kg)	発熱量 (W)	端子ビス
			A	B	C	D	E	F				
UF1-□025△	25A	自冷	60	40	240	256	270	190	3	43	M5	
UF1-□035△	35A	自冷	60	40	240	256	270	190	3	57	M5	
UF1-□050△	50A	自冷	60	40	240	256	270	190	3	77	M5	
UF1-□075△	75A	自冷	60	40	240	256	270	230	3.5	113	M6	
UF1-□100△	100A	風冷	60	40	240	256	270	230	4	164	M6	
UF1-□150△	150A	風冷	118	98	240	256	270	230	5	224	M8	
UF1-□250△	250A	風冷	118	98	350	366	380	260	8	349	M10	
UF1-□350△	350A	風冷	118	98	425	437	455	260	12	395	M12	
UF1-□450△	450A	風冷	118	98	425	437	455	260	12	512	M12	

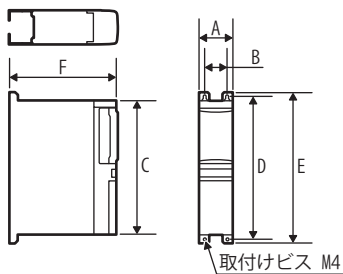
※ □ = 2 : 200V/220V/254V

□ = 4 : 380V/400V/440V/460V/480V

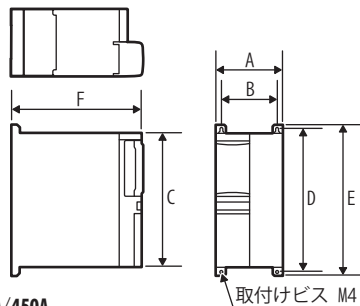
※ △ = 無 : FUSE 無し

△ = F : FUSE 付き

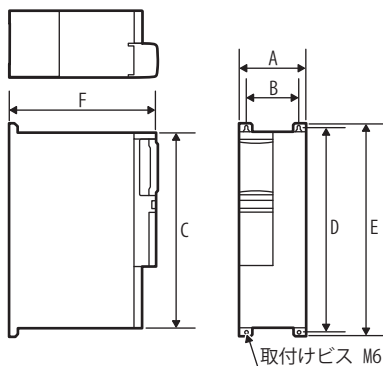
• 25A~100A



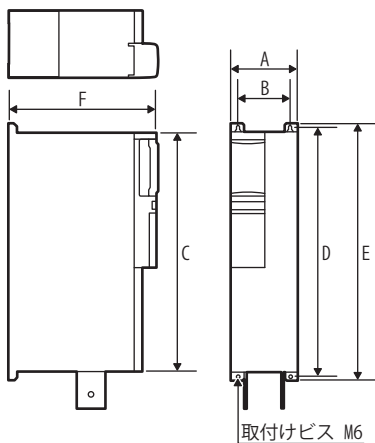
• 150A



• 250A



• 350A/450A



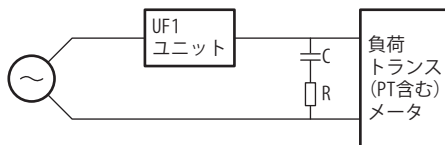
使用ヒューズ

ユニット電流	ヒューズ 200V/400V
25A	660GH 50S-F
35A	660GH 63S-F
50A	660GH 100S-F
75A	660GH 125S-F
100A	660GH 160S-F
150A	660GH 250S-F
250A	660GH 350S-F
350A	660GH 500S-F
450A	660GH 710S-F

その他

■ 使用上の注意

- ・ 主回路配線はユニットの定格電流に対して十分に余裕を持った線を用いてください。
- ・ 主回路配線は K 端子を電源側に、L 端子を負荷側に接続してください。
- ・ 主回路電源と制御回路電源の位相は、必ず合わせてください。
- ・ 制御回路配線と主回路配線とは結束しないでください。
- ・ 小容量負荷（定格の約 10%以下）の場合、自己診断機能により“LOD”表示灯が点灯することがありますが、運転上支障はありません。
- ・ 盤内にユニットを収納する場合、ユニットの内部発熱量に注意して換気を考慮してください。（内部発熱量は『ユニットの外形寸法』の項に明記してあります。）
- ・ サイクル制御で運転される場合は、ヒューズ付きを使用することを推奨します。
- ・ 小容量負荷の場合、信号がオフでも負荷側に漏れ電流が流れ誤動作を起こすことがありますので、負荷と並列にフリーダ抵抗を接続してください。（最小負荷電流 1A 以上）
- ・ ユニットの取り付けは必ず縦方向に垂直に取付け、据付上の注意事項のように取付間隔を開けてください。横方向に取付けたり取付間隔を小さくしますと、冷却が悪くなりユニットの温度が異常上昇します。
- ・ 正面扉が保守点検の際に開閉できるように取付けてください。
- ・ 温調器からは 5V または 20mA 以上印加しないでください。
- ・ 誘導性負荷（トランス負荷を含む）の場合、軽負荷時では共振現象による異常電圧やトランス負荷時ではゲートブロック（GT 端子による ON/OFF 含む）または、電源断時によるサージ電圧等により、ユニットの負荷側に定格以上の電圧が発生する場合がありますので、ユニットの負荷側に CR アブソーバーを入れてください。



電流 (A)	200V 系ユニット		400V 系ユニット	
	コンデンサ (μF)	抵抗 (Ω)	コンデンサ (μF)	抵抗 (Ω)
25 ~ 100	0.5 (AC400V)	50 (120W)	1 (AC800V)	50 (120W)
150 ~ 350	1 (AC400V)	20 (120W)	1 (AC800V)	20 (120W)
450	2 (AC400V)	20 (120W)	2 (AC800V)	20 (120W)

■ 保守と点検

- ・ ほこり、湿気、過熱、振動等は、性能の低下や故障の原因となりますので注意してください。
- ・ 保守点検時には、必ず主回路電源・制御回路電源を切ってください。運転/停止スイッチを停止にして、回路には電圧が印加されていますので、注意してください。
- ・ 警報回路が動作した場合は、ユニット正面窓の異常表示灯が点灯または点滅していますので、その内容であるかを確認して電源を切ってください。
- ・ “OCR” または “F” が点灯している場合は、ユニットに何らかの異常電流が流れていますので、その原因を除去して再運転してください。
- ・ “TMP” が点灯している場合は、ファンの故障等で冷却効果が悪くなっています。ファンの交換・冷却効果の改善を行ない、再運転してください。
- ・ “THY” が点滅している場合は、サイリスタが故障または検出ラインが断線・短絡していますので、新しい物と交換または配線を確認して再運転してください。

■ トラブルシューティング

故障?!と思われましたら、この取扱説明書をよくお読みいただき、次の事項の点検をしてください。それでもなお異常のある場合は、ユニットの電源を必ずオフし、最寄の販売店または、営業所へご連絡ください。

症状	原因	対策
出力が出ない	制御電源が 160V 以下ではありませんか？	200/220V の電源を入れてください。
	ST-PH 間が開放になっていませんか？	短絡してください。
	GT-PH 間が開放になっていませんか？	短絡してください。
	勾配設定を使用しない時、VF2-VE3 間が開放になっていませんか？	短絡してください。
	勾配設定が 0 になっていませんか？	上げてください。
	主回路電源と制御電源の位相は、合っていますか？ (LOD が点滅する場合があります。)	位相を合わせてください。
	配線が間違っていますか？	確認してください。
出力が異常	異常表示灯が点灯または点滅していませんか？	原因を除去し制御電源を入り切りしてください。
	スイッチ S1 の設定を間違っていますか？	設定方法をもう一度ご確認ください。
	定電力制御の場合、PT・CT の極性は合っていますか？	極性を合わせてください。
	スイッチ S1 の設定を間違っていますか？	設定方法をもう一度ご確認ください。
	変換ボードの設定を間違っていますか？	設定方法をもう一度ご確認ください。
	変換ボードのフィードバック制御を使用されていますか？	電源を落とし、変換ボードを抜き差しして、勤合のやり直しをしてください。

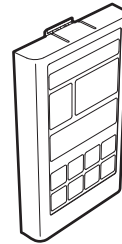
オプション

■ 表示パネル (型式 UF-DP)

○ 機能

表示パネルを用いることにより、以下のような機能を活用することができます。詳細は、『表示パネル取扱説明書』をお読みください。

- ・ 出力電流、電圧、電力を表示することができます。
- ・ 温度器からの制御信号や手動 (上限)、下点 (下限)、勾配信号が何%に設定されているかを表示することができます。
- ・ 制御信号や手動 (上限)、下点 (下限)、勾配信号が外付けのボリュームなしで、表示パネルより任意に設定できます。
- ・ ソフトスタート時間、電流制限量、ヒータ断線検出量を表示パネルより任意に設定できます。
- ・ 運転 / 停止を表示パネルから操作することもできます。
- ・ 関数機能により入出力特性を直線性以外に 7 種類選択することができ、直線性以外は任意に入出力特性を設定することができます。また、一度設定された値は電源を切っても記憶しています。

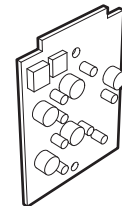


■ 変換ボード (型式 UF-TB)

○ 機能

変換ボードを用いることにより、以下のような機能を活用することができます。詳細は、『変換ボード取扱説明書』をお読みください。

- ・ 定電圧、定電流、定電力制御で出力をコントロールすることができます。
- ・ ヒータ断線を検出することができます。
- ・ 表示パネルを同時に用いることにより、出力電流、電圧、電力を表示することができます。
- ・ 自己診断機能の機能アップをはかることができます。但し、各機能については、変換ボードの型式によって異なります。



■ 通信機能

DeviceNet 等のオープンネットワーク通信に対応しております。通信機能については、当社営業までご連絡ください。

通信ユニット	対応ネットワーク
UF-RS485	RS485 通信ユニット
UF-DN	DeviceNet 通信ユニット
UF-CL	CC-Link 通信ユニット
UF-PB	PROFIBUS 通信ユニット

ユニットの仕様

項目	仕様	
型式	ヒューズなし：UF1-2 *** ヒューズ付き：UF1-2 *** F、UF1-4 *** F	
主回路	相数	単相
	定格入力電圧	100/110/120V 200/220/254V 380/400/440/460/480V
	電源変動範囲	± 10%
	定格周波数	50/60Hz (周波数自動判別方式)
	定格電流 (周囲温度 50 °C)	25A、35A、50A、75A、100A、150A、250A、350A、450A (600A、800A、1200A 準標準)
制御回路	制御電源	AC200/220V 単相 25VA (100A ユニット以上 50VA)
	性能保証電圧	AC180V ~ AC242V
	動作保証電圧	AC160V ~ AC242V
	ファン電源	制御電源と共用 (100A ユニット以上)
制御方式	位相制御 サイクル制御 (間欠式 / 連続式) 連続式はフィードバック制御不可	
出力電圧調整範囲	位相制御 0% ~ 98% (実効値) サイクル制御 0% ~ 98% (実効値) (サイクル数 100%)	
勾配設定範囲	0% ~ 100% (出力に対して)	
下点設定範囲	0% ~ 100% (出力に対して)	
入出力特性	直線性 ± 3% F.S. (出力 10 ~ 90%にて) 但し、サイクル制御 連続式の場合、直線性 ± 5% F.S.	
周囲温度	-10 °C ~ 50 °C (湿度 90%RH 以下)	
保存温度	-20 °C ~ 70 °C	
適用負荷	位相制御：抵抗負荷、誘導負荷、変圧器一次制御 サイクル制御：抵抗負荷、変圧器一次側制御 (オプション)	
制御信号	電流信号：DC4mA ~ DC20mA (内部抵抗 250Ω) 電圧信号：DC1V ~ DC5V、DC0V ~ DC5V (内部抵抗 10kΩ)	
起動停止方式	ソフトスタート / ダウン方式 0.5 秒 (標準) (表示パネルにて、0.0 ~ 300 秒設定)	
冷却方式	自冷：75A ユニット以下 風冷：100A ユニット以上	
警報出力機能	重故障リレー	過電流、温度異常、ヒューズ断線、サイリスタオープン・ショート、 負荷ショート時に動作 接点出力：1a 接点 (AC250V 1A) 警報表示：LED (OCR、TMP、F) 点灯、LED (THY、LOD) 点滅
	軽故障リレー	電源電圧低下、周波数異常、負荷オープン、ヒータ断線時に動作 接点出力：1a 接点 (AC250V 1A) 警報表示：LED (HET) 点灯、LED (L.Vo、FRQ、LOD) 点滅
電流制限機能	定格電流の 50 ~ 110% に設定可能	
瞬停検出機能	停電 (半サイクル以上) を検出し出力をオフします。復電後、ソフトスタートにて出力します。	
絶縁耐圧	AC2000V/1 分間 (200/220/254V 用) AC2500V/1 分間 (380/400/440/460/480V 用)	
絶縁抵抗	20MΩ 以上 (DC500V)	

お問い合わせ



株式会社 三社電機製作所

営業直通電話

営業本部 (06) 6325-0500

東京支店 (03) 3834-1700

九州営業所 (092) 431-7586

電力調整器担当までご連絡ください。
ホームページ：<http://www.sansha.co.jp/>